



第58回パールレースが関係各位のご協力とご尽力のもと、盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

180海里という壮大な行程を走破するパールレースは日本最大規模の外洋ヨットレースとして知られており、このような国内屈指のヨットレースのスタートを今年も私の地元、五ヶ所湾で迎えられるということは誠に光栄であります。

天候や潮の流れに左右される海の上での皆様のご苦労は想像を絶するものであると思います。息の合ったチームワークで日頃から培ってこられた技術と体力を遺憾なく発揮していただき、フィニッシュラインを横切った時の満足感と充実感を十二分に感じていただきたいと思います。

また、このパールレースが地域の活性化へとつながり、五ヶ所湾と江の島を結ぶ架け橋となり、太平洋という大海原から海のすばらしさを発信していただければと思います。

最後になりましたが、パールレースが今後ますます伝統と格式あるヨットレースに発展されることをご期待申し上げますとともに、航海の安全とクルー皆様方のご健闘を心よりご祈念申し上げます。



「第58回パールレース」が、本県の南伊勢町・志摩ヨットハーバーをスタート地点として、神奈川県藤沢市・江の島ヨットハーバーまでの180海里に及ぶ紺碧の大海原を舞台に、盛大に開催されますことを、心よりお慶び申し上げます。

本県においては、平成30年に全国高等学校総合体育大会「2018彩る感動東海総体」、平成32年に全国中学校体育大会、平成33年には第76回国民体育大会「三重とわか国体」及び第21回全国障害者スポーツ大会「三重とわか大会」の開催が予定されており、本年を三重県のスポーツ推進にとって極めて重要な5年間のスタートの年「スポーツイヤー・元年」と位置づけています。スポーツで元気な三重をつくるため、これらの大会の成功と三重県選手の活躍に向け、競技力向上対策や施設整備、大会準備等を加速させています。

そのような中、この日本有数の外洋ヨットレースが開催されますことは、本県におけるマリンスポーツの普及や推進のみならず、スポーツを「する」「みる」「支える」すべての立場の人々に、その醍醐味と迫力、絶妙なチームワークによって、大いなる感動と勇気をもたらす絶好の機会になると考えております。

大会に出場されますクルーの皆さんには、日頃の練習による技術習得の成果を十分に発揮し、大きな実りを得られることを期待するとともに、多くの仲間との交流を深め、いつまでも心に残る大会にしていただきたいと思います。

伊勢志摩サミットが大成功のうちに閉幕して1年余りがたち、記念館「サミエール」がオープンしました。ぜひ、この機会にご来館いただき、サミットで世界に発信された魅力ある三重の自然や文化に触れていただきたいと思います。

最後になりましたが、パールレース実行委員会の皆さまをはじめ、本大会の開催にあたりご尽力をいただきました多くの関係者の方々に敬意を表しますとともに、全艇が無事にフィニッシュされますことと、本大会のご成功を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



「第58回パールレース」が盛大に開催されますことをお喜び申し上げます。また、神奈川県へお越しの選手・役員ならびに関係者の皆様を心から歓迎いたします。

本県では、東京2020オリンピック競技大会のセーリング競技が江の島で開催されることから、大会の準備を着々と進めるとともに、セーリングの魅力をより多くの方に知っていただくため、体験会や動画の放映など、様々な活動を行っているところです。

今回で58回目の開催を迎える「パールレース」は、三重県の五ヶ所湾から江の島まで180海里にわたって行われる、国内有数の規模と歴史を持つレースです。オリンピックの競技会場となるここ江の島で皆様を迎えられますことは、セーリングの普及・振興を目指す本県にとっても大きな意味を持つものであり、選手の皆様全員が無事にフィニッシュされることを心から願っています。

長時間にわたり、刻一刻と変化する海と向き合う外洋ヨットレースは、技術や体力に加え、精神力も求められる厳しい競技です。それだからこそ、フィニッシュの際の選手の皆様の達成感は格別なものだと思いますし、観る者に大きな感動を与えてくれるのだと思います。参加されるクルーの皆様には、日々の練習で培ってこられた技術とチームワークを存分に発揮し、最後まで全力で戦い抜いていただきたいと思います。

結びに、大会の開催に御尽力いただきました関係者の皆様に深く敬意を表しますとともに、大会の御成功並びに選手の皆様の御健闘と航海の安全を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



「第58回パールレース」が今年も盛大に開催されますことを、本レースのスタート地点にあります南伊勢町の町民を代表して心からお喜び申し上げます。

クルーの皆様におかれましては、この日のために日々鍛錬されていることと存じます。この成果を存分に発揮され多くのヨットを愛する仲間たちとの交流を深め、思い出に残る有意義な大会にさせていただければと思います。

当町は、伊勢志摩国立公園の中でも山と海が迫った典型的なリアス海岸で、紺碧の海と山の緑で彩られた風光明媚なところです。豊かな自然環境と新鮮な魚介類などのおいしい「食」、「平家落人伝説」に代表される歴史や文化など、多様で深く味わうことのできるスポットがたくさんあります。機会がございましたら是非魅力のスポットを満喫していただければ幸いです。

昨年はこの伊勢志摩地域において伊勢志摩サミットの開催や国立公園指定70周年記念事業、ナショナルパークの選定など国内外に向けマスメディア等を通じて様々な情報が発信され、外国人を含めた多くの観光客のみなさまが当町を訪れています。

当町においても、この機会を活かすべく、今年には河村瑞賢生誕400周年のイベントやトレイルランレース等の開催を予定しておりますので、ぜひご参加、ご観覧いただければと思います。

最後になりましたが、大会の開催にご尽力いただきました関係の皆様には深く敬意を表しますとともに、大会のご成功並びに選手の皆様のご健闘と航海の安全をお祈りして、お祝いの言葉とします。



第58回を数える「パールレース」。今年もまた夏の江の島をフィニッシュ地として、ご参加の各艇をお迎えすることができることを大変荣誉に思います。そして大会の歴史を積み重ねてこられました選手の皆様、並びにご関係の皆様の情熱に満ちたご尽力に心より敬意を表します。

浮世絵にも描かれてきた「江の島」。古くから多くの人々に親しまれ、今もなお景勝地として訪れる者の心をつかむその姿は、藤沢市民の誇りです。現在は、その頂に展望灯台「シーキャンドル」が白くそびえ、ライトアップイベント等でも観光客に人気を博しています。海上から江の島を見る機会は誰にでも有ることではありませんが、歴史ある外洋レースであるパールレースのフィニッシュ地に江の島が選ばれましたのも、魅力ある眺望の一端を表しているのではないかと嬉しく感じております。

2020年に江の島でオリンピック・セーリング競技が開催されますことは周知のところで、公開競技としてオフショアレースも実施予定とのこと、1964年のオリンピックから2回目のセーリング競技会場に選ばれましたこの機会に、沢山の出会いを楽しみにしております。そしてまたオリンピック以降もセーリング競技振興の一翼を担えるように、郷土に根ざしたレガシーを未来に受け継いでゆけるよう取り組んでまいりたいと思います。

遠く離れた三重県、五ヶ所湾からスタートして180海里に及ぶ一大レース、大海原を舞台に、繰り広げられる熱戦をご期待申し上げますとともに、参加各艇の航海の安全と、選手の皆様方、運営に携わる皆様方のご健勝をお祈りいたします。



第58回パールレースが開催されますことを心からお喜び申し上げます。
駐日ノルウェー王国大使館、国土交通省、スポーツ庁、海上保安庁、三重県、神奈川県、南伊勢町、藤沢市等の関係機関、また（株）御木本真珠島、鳥羽商船高等専門学校、南伊勢町観光協会、（公社）藤沢市観光協会、ヴィーブルオーシャンクラブ、（一社）江の島ヨットクラブ、指定管理者・㈱湘南なぎさパーク、三重外湾漁業協同組合、江ノ島片瀬漁業協同組合、腰越漁業協同組合、外洋東海および外洋湘南の実行委員会の皆様、ならびに江の島ヨットクラブのご協力・ご支援をいただきましたことに厚く御礼申し上げます。

1960年から半世紀以上毎年開催されている伝統ある「パールレース」は、毎年多くの潮っけのある外洋セーラー達が誇りと憧れをもって参加し、日本における外洋レースの雄として存在しており、JSAFとしても誇るべきレースの一つです。

ひとたびスタートしてからは夜を徹して帆走し続ける外洋レースは、単に帆走性能や操船技術だけでなく、天候急変等の危機にも備える細心さと、厳しい海象の中をも帆走し続ける大胆さを持ち合わせていなければなりません。

そのため、このパールレースでは安全に大きな配慮を行い、参加資格に年1回以上の落水救助訓練を義務付けるとともに、多くの艇がレース直近にも落水救助訓練を実施して、それを写真や映像で記録していることは素晴らしいことと思います。

パールレースに出場する各艇のオーナー・クルーは、スタート直前まで万全の準備に余念がないことと存じます。全艇無事に180マイルのコースを江の島まで完走して、参加選手全員が笑顔でフィニッシュすることを祈念して、私のご挨拶といたします。